

# 令和4年度 農作物病虫害発生予察12月月報

令和5年(2023年)1月4日  
山口県病虫害防除所

## I 気象概況

アメダス山口県山口地点

月・半旬	気 温 (°C)								
	平均			最高			最低		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
12.1	7.4	8.4	△ 1.0	12.0	13.8	△ 1.8	3.3	3.8	△ 0.5
12.2	6.6	7.3	△ 0.7	13.9	12.6	1.3	0.9	2.9	△ 2.0
12.3	7.2	6.6	0.6	11.8	11.7	0.1	3.7	2.2	1.5
12.4	3.5	6.1	△ 2.6	8.2	11.2	△ 3.0	-0.3	1.8	△ 2.1
12.5	3.1	5.7	△ 2.6	7.3	10.9	△ 3.6	-0.6	1.4	△ 2.0
12.6	4.8	5.2	△ 0.4	10.9	10.5	0.4	0.6	0.9	△ 0.3
平均・計	5.4	6.6	△ 1.1	10.7	11.8	△ 1.1	1.3	2.2	△ 0.9
月・半旬	降水量(mm)			日照時間(h)					
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差			
	12.1	1.0	13.5	△ 12.5	16.5	20.7	△ 4.2		
12.2	0.5	13.0	△ 12.5	26.0	19.4	6.6			
12.3	3.0	11.3	△ 8.3	27.2	18.3	8.9			
12.4	0.5	10.1	△ 9.6	20.0	18.0	2.0			
12.5	32.5	10.0	22.5	16.0	18.6	△ 2.6			
12.6	1.0	11.5	△ 10.5	31.2	23.3	7.9			
平均・計	38.5	69.4	△ 30.9	136.9	118.3	18.6			

## II 作物の生育状況

- (1) キャベツ : 定植後、全体的に生育は概ね順調に推移している。加工用の本格的な出荷開始は12月上旬以降早生品種から始まり、現在安定的に出荷されている。一部では、やや生育旺盛で外葉が大きく結球が早かった。
- (2) イチゴ : かおり野は12月中旬以降1番果の出荷盛期の見込み。ただ、12月上旬以降の低温や日照不足で着色・肥大が遅れており、当初の見込みよりは出荷時期が遅れている。2番果は多くの地域で出蕾～開花期に入っており、1月下旬以降に出荷量が増加する見込みである。

### III 病害虫の発生状況

#### 1 普通作物

2022年12月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
ダイズ (収穫物被害調査:20ほ場) 紫斑病	発生ほ場率15.0%(平成24.5%)、発病粒率0.2%(平成0.4%)で平成並みであった。	県内全域	少 123
べと病	発生ほ場率35.0%(平成26.2%)、被害粒率0.5%(平成0.4%)で平成並みであった。	県内全域	少 287
ウイルス病	発生ほ場率5.0%(平成0%)、被害粒率0.3%(平成0%)で平成に比べ多かった。	県内全域	少 41
サヤムシガ類	発生ほ場率0%(平成26.0%)、被害粒率0%(平成0.2%)で平成に比べやや少なかった。	—	—
シロイチモジマ ダラメイガ	発生ほ場率0%(平成9.1%)、被害粒率0%(平成0.2%)で平成に比べやや少なかった。	—	—
マメシンクイガ	発生ほ場率10.0%(平成18.4%)、被害粒率0.1%(平成0.5%)で平成に比べやや少なかった。	県内全域	少 83
フタスジヒメハムシ	発生ほ場率95.0%(平成90.5%)、被害莢率9.4%(平成13.1%)、被害粒率5.0%(平成4.0%)で平成並みであった。	県内全域	多 41 中 249 少 497 計 787
吸実性カメムシ類	発生ほ場率95.0%(平成72.6%)、被害粒率9.9%(平成4.3%)で平成に比べ多かった。	県内全域	甚多 41 83 中 373 少 209 計 706

#### 2 野菜

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
キャベツ (調査ほ場数:中 旬12、下旬11) 黒腐病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平成5.5%)、発病株率0%(平成0.5%)、発病度0(平成0.1)で平成並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平成7.1%)、発病株率0%(平成0.4%)、発病度0(平成0.1)で平成並みであった。	—	—
菌核病	中旬の巡回調査では、発生ほ場率25.0%(平成4.7%)、発病株率1.3%(平成0.2%)で平成に比べ多かった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率27.3%(平成10.9%)、発病株率1.2%(平成0.6%)で平成に比べやや多かった。	県内全域	少 43

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)	
キャベツ べと病	中旬の巡回調査では発生ほ場率0% (平 年4.5%)、発病株率0% (平年1.3%)、 発病度0 (平年0.3) で平年並みであっ た。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平 年2.3%)、発病株率0% (平年1.3%)、 発病度0 (平年0.3) で平年並みであっ た。	—	—	
萎黄病 軟腐病	中旬、下旬の巡回調査では、発生は認め られず平年並みであった。	—	—	
イチゴ (調査ほ場数:20) うどんこ病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0% (平年21.2%)、発病株率3.9% (平年 2.5%)、発病葉率0.8% (平年0.7%)、 発病果率0.8% (平年0.3%) で平年並み であった。	県内全域	少	20
灰色かび病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.0% (平年9.3%)、発病株率0.3% (平年 0.9%)、発病果率0.0% (平年0.2%) で 平年並みであった。	県内全域	少	10
炭疽病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (前 年0%)、発病株率0% (前年0%) で前年 並みであった。	—	—	
菌核病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平 年1.4%)、発病株率0% (平年0.0%) で 平年並みであった。	—	—	
萎黄病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率5.0% (前年5.0%)、発病株率0.1% (前年 0.1%) で前年並みであった。	県内全域	少	5
アブラムシ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 25.0% (平年23.7%)、寄生株率3.3% (平年2.7%) で平年並みであった。 主要種はワタアブラムシであった。	県内全域	中 少 計	5 20 25
ハダニ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年36.8%)、寄生株率0% (平年 11.2%) で平年に比べ少なかった。	—	—	
コナジラミ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率 10.0% (平年29.3%)、寄生株率0.3% (平年4.4%) で平年に比べ少なかった。 主要種はオンシツコナジラミであっ た。	県内全域	少	10
ハスモンヨトウ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年2.5%)、寄生株率0% (平年0.1%) で平年並みであった。	—	—	

2022年12月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
イチゴ アザミウマ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率5.0% (平年8.1%)、寄生花率0.1% (平年0.5%) で平年に比べやや少なかった。主要種はヒラズハナアザミウマであった。	県内全域	少 5
オオタバコガ、 シロイチモジヨ トウ	下旬の巡回調査では、発生は認められず平年並みであった。	—	—

お問い合わせ先 山口県病害虫防除所  
 TEL (083)927-4006  
 E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp